



## リビングスクールヤード (生命ある校庭)への動き

世界に広がる機運

シャロン・ギャムソン・ダンクス  
日本語訳: 鈴木俊治

ごく普通の校庭として、あなたの心にはまずどのようなイメージが浮かぶでしょうか？多くの人たちにとって校庭とは、舗装された地面にスポーツ競技用の線が引かれ、周囲にはいくらかの単調な植栽や樹木があり、ひとつつかふたつの登り遊具があるといったものです。大半の校庭は同様であり、学校のあるコミュニティ、近隣の生態系や地形、学校のカリキュラムなど特有の条件を反映したものはほとんどありません。

子どもたちは、ウェンディ・ティットマンが「隠されたカリキュラム」と呼ぶ校庭を読み解く達人です。子どもたちは、大人たちの環境に対する配慮のレベルによってその場に与えられた価値をよく理解します。ほとんどの校庭は、その場についてどのようなメッセージを子どもたちに与えようとしているのか、判断としません。とりわけ私たちが住む都市の校庭は、世界中どこであっても舗装され、生物はほとんどいません。

多くの国において、学校外で子どもたちだけで探検できる場所は、この2-3世代で大きく減少してしまいました。子どもたちの領域は、かつては何マイルにもわたって広がっていたものが、今では自宅前の道をちょっと行ったくらいまでという限られたものとなっています。今

初出：Children & Nature Network, The New Nature Movement: Guest Columns, February 6, 2014. 写真と文章 © Sharon Gamson Danks, 2005-2016.

や校庭は、多くの子どもたちにとって、毎日屋外で遊ぶことが許されるたったひとつの場です。校庭が子どもたちの健康や発展を育む役割はますます重要になっています。学校は次世代を担う子どもたちに屋外でさまざまなことを体験する機会を提供し、好奇心、冒険心、健全なライフスタイル、そして自然に対する愛情の心などを育成する責任があると、私は確信しています。



「リビングスクールヤード（生命ある校庭）」運動は世界中で広がりつつあります。そして、すべての子どもたちの毎日の生活を改善できる可能性を持っています。

校庭は1940年代の教育方式（訳者注：米国における）に合わせた伝統的なデザインを脱し、美しく、多様な生態系のあるランドスケープが施され、将来に目を向けたものに変わろうとしています。校庭に緑をつくりだすことは、自然や環境持続性を場所に基づいた教育、現場の状況に基づくカリキュラム、創造的な遊びに結び付け、さらにはコミュニティ創造にもつながります。

この15年間で、私は東京、サンフランシスコ、トロント、ベルリンなど数多くの都市を訪問し、そこでこの分野における素晴らしい活動を目にし、都市や近隣地区に違いを生み出している多くの人たちに会うという幸運を得てきました。その成果を踏まえ、私たちは「インターナショナル・スクールグラウンド・アライアンス」(International School Grounds Alliance, [www.internationalschoolgrounds.org](http://www.internationalschoolgrounds.org))という組織を立ち上げ、校庭のデザインと使い方の改善を通して子どもたちの学習と遊びの環境を豊かにすることに取り組んでいます。この運動は成長しつつあり、あなたにもぜひこの大切な事業に加わっていただきたいと思えます。



市販されている遊具は、素材、デザイン、配置を慎重に検討することによって、自然を基盤としたリビングスクールヤードに取り込むことができる。地表面には浸透性の材料、例えば砂や緩衝材を敷くことによって雨が地中に浸透し、子どもたちは創造的な遊びができるようになる。

## なぜリビングスクールヤードを創るのか？

🌀 **その場所ならではの教育** リビングスクールヤードは、生徒たちを取り巻く環境に着目し、実際に自然に触れ、生徒たちが住む地域を理解する機会を提供します。子どもたちは生き物の変化、秋の紅葉、地面に映る影の長さなど四季の変化に気付くようになります。雨の日にクラスみんなで外に出て、雨水が校舎から雨樋を通して庭や貯水槽に流れ込むことを見るといったことは、生命についての教育に革新的な変化を与えるでしょう。多くの、優れたたしかもお金がかからない教育方法が教室の外にあり、活かされるのを待っているのです。

🌀 **コミュニティへの関わり**の増進 リビングスクールヤードは子どもたちの環境への理解度を高め、身体を生き生きとさせ、心を開き刺激を与え、そしてその形成プロセスはコミュニティの結びつきを強めます。リビングスクールヤードの成功は、学校のあるコミュニティの協調性をうまく引き出すことによって得られます。校長、教員、保護者、生徒、地元組織の協力によって、相互に依存しつつ地元での信頼性が高まり、コミュニティ意識が広まり、非常に低いコストで使いやすく美しい場がつくられます。人々が校庭の改善に協働で取り組むとき、お互いの親密度が高まり、やがて子どもたちがウェルビーイング（訳者注：幸福や生活についての精神的な充足）を得ることにつながります。リビングスクールヤード運動は、私たちの社会が共有する大切な公共空間に対する見方を変え、コミュニティ内パートナーの参加を得ながら、学校区による地域マネジメントの努力を支援します。

🌀 **管理養育(スチュワードシップ)の実践** リビングスクールヤードは、若い子どもたちでも理解し世話をすることができる、身近な環境の大切さに焦点を当てています。身近な環境はその場ならではのものであることに子どもたちは気づき、この世界の一角にある自分たちの場として、自らの創意工夫によって修復し、より豊かにしようとします。ひとつひとつの行動は小さいかもしれませんが、それらは積み重なってやがては地域の環境を根底から改善していくでしょう。そして、子どもたちは世界の中にある自分たちの場の理解を深めることでしょう。これは前向きな環境教育であり、蔓延している「エコフォビア（訳者注：自然に対する興味を失い、嫌悪したり怖がったりすること）」や自然との断絶への対応方策でもあります。

🌀 **冒険心、不思議に思う心、健康を養う** リビングスクールヤードは、子どもたちが想像し、探検し、冒険し、そして不思議に思う状況を設えることによって、子どもたちの社会的・身体的・知的な成長を促します。そのダイナミックな環境のなかで、子どもたちは走り、スキップし、ジャンプし、ぐるぐる回り、食べ、遊びます。それらは活動的、挑戦的、創造的です。豊かにされた校庭は、子どもたちの自主的な遊びを育みます。また運動量の増進、栄養バランスに配慮したガーデニングやクッキングプログラムなどによる健康的なライフスタイルを通して、北米や他地域に広まっている子どもの肥満対策ともなります。



適切にデザインされたリビングスクールヤードは、私たちが暮らしたい豊かな環境を備えた都市のモデルとなります。それらは小さなスケールで、次世代の人たちにどのようにすれば地球に優しく生きられるか教えます。そこは、都市と自然が共存しながらも自然のシステムが支配し、見え、誰もがそれを享受できる世界です。そこでコミュニティと子どもたちは、オーガニック食品の生産、野生生物の生態、エネルギーの消費と生産、雨水回収と利用、持続可能なデザインの実践、創造的なアートなどについて学びます。子どもたちにこの環境を自らの手、心、思いによって探索すること〜ツリーハウスに登ったり、新しい世界への挑戦に飛び込んだりするなどさまざまなことを教えることは、子どもたちが成長するにつれて環境への理解度が高い社会が形成されるよう、種まきをしているのです。

私たちはみなリビングスクールヤード運動の大切な参加者です。あなたのお住まいの近くの学校でリビングスクールヤードをつくり始めることで、どこでも、子どもたちに手を差し伸べられる可能性があります。近隣の皆さん、校長先生、学校区の運営管理者と話を始めてください。子どもたちのためにどのような校庭にしたいのか夢を持ち、そして身近な学校でそれを実現するためにご助力ください。将来の校庭は、あなたとあなたのコミュニティがつくるものなのです。



校庭の路面を伝統的な舗装からリビングスクールヤードに変えることによって、劇的な変化が起こり、子どもたちが遊び探索する様々な機会がもたらされる。

### 著者略歴

シャロン・ギャムソン・ダックス Sharon Gamson Danks 環境プランナー。カリフォルニア州パークレーを本拠地とするNGOであるグリーンスクールヤードアメリカ(Green Schoolyards America)最高責任者CEO。アスファルトからエコシステムへ: スクールヤードデザイン変革のアイデア(Asphalt to Ecosystems: Design Ideas for Schoolyard Transformation)著者。NGO国際ナショナル・スクールグラウンド・アライアンス(The International School Grounds Alliance)共同設立者。校庭を地域の生態系を反映し増進した活動的なパブリックスペースに変え、子どもたちの学びや遊びを育み、コミュニティへの関わりを深める活動に取り組んでいる。

より詳しくは下記 ウェブサイトをご覧ください(英語)

Green Schoolyards America  
www.greenschoolyards.org

The International School Grounds Alliance  
www.internationalschoolgrounds.org

### 日本語訳

鈴木俊治。都市デザイナー/プランナー。有限会社ハーツ環境デザイン代表。明治大学、早稲田大学、東京大学他講師。翻訳書(共訳)に「パブリックライフ学入門『How to Study Public Life (by Jan Gehl and Birgitte Svarre)』」、「オープンスペースを魅力的にする『How to Turn a Place Around (by Project for Public Space)』」など。



リビングスクールヤードは、子どもたちの能力レベルに合った、多様な自然体験と、挑戦的で創造的な遊びの場を提供する。

